

薄茶点前 炉

運び

準備 道具は使う前に、必ず清めること。

- 水指みずさしに八分目ほど、水を入れます。
- 茶碗ちawanに茶巾ちやせん、茶筌ちやしやく、茶杓ちやしやくを仕組みます。
- 薄茶器うすちやくきに薄茶はくちやを掃はきます。
- 建水けんすいに蓋置ふたおきを入れ、柄杓ひしやくの合ごうを伏せて建水の縁ふちにかけておきます。
- 運びの場合は竹蓋置たけふたおきをういます。
- 点前座てんぜんざの炉ろは、灰はい、釜かまの高さを整え、炉縁ろふちをはめておきます。
- 小間こまは風炉先ふうろさきを据えません。

点前の流れ

1 道具を運び出す

▲ 6頁

- 水指みずさしを茶道口建付けさうじくぐちたてつに置き、襖ふすまを開けて一礼をす。
 - 水指を持って進み、点前置中央てんぜんちゆうに座って、水指を畳の中央、定座ていざに置く。
 - 棗なつめ(薄茶器)、茶碗ちawanを運び出し、水指の前に置く。
 - 柄杓ひしやく、蓋置ふたおきを仕組んだ建水けんすいを運び出し、茶道口に座って襖ふすまを閉める。
 - 建水けんすいを持って立ち、点前置てんぜんちゆうに進んで、炉縁ろふちの内隅うちぐみをねらって座り、建水けんすいを置く。
- 2 棗なつめ、茶杓ちやしやくを清める↓茶巾ちやせんを出す ▲ 9頁
- 柄杓ひしやくをかまえて、蓋置ふたおきを炉縁ろふちの下座げざに置く。
 - 柄杓ひしやくを蓋置ふたおきに引き、建水けんすいを進めて、居すまいを正す。



3 茶筌ちやしやく通し↓茶ちやを点てんてて定座ていざに出す

▲ 14頁

- 茶碗ちawanを二手にたてに扱い、膝前中央かみづみちゆう少し向こうむこうに置く。
 - 棗なつめを取り、茶碗ちawanと膝かみの間に置く。
 - 帛紗ふくさをさばいて棗なつめを清め、炉縁角ろふちかくと水指みずさしの中心ちゆうしんを結んだ線むすんだせん上うへ、やや左寄りひだり寄りに置く。
 - 帛紗ふくさをさばき直して茶杓ちやしやくを清め、棗なつめの上に置く。
 - 茶筌ちやしやくを取り、棗なつめの右側みぎがはに置いて、茶碗ちawanを少し手前てまへに引く。
 - 男性おとこの場合は、帛紗ふくさを腰こしにつけて柄杓ひしやくをかまえ、釜かまの蓋ふたを開けて蓋置ふたおきに置く。
 - 帛紗ふくさ扱あつかいの釜かまの場合は、柄杓ひしやくをかまえ、帛紗ふくさで釜かまの蓋ふたを開けて、帛紗ふくさを左膝横ひだりかみよこに置く(13頁参照)。
 - 茶碗ちawanから茶巾ちやせんを取り出し、釜かまの蓋ふたの上に置く。
- 3 茶筌ちやしやく通し↓茶ちやを点てんてて定座ていざに出す ▲ 14頁
- 柄杓ひしやくで湯ゆを汲くみんで茶碗ちawanに入れ、柄杓ひしやくを釜かまにあずける。
 - 茶筌ちやしやく通しをして、茶筌ちやしやくを元の位置もとに戻し、茶碗ちawanの湯ゆを建水けんすいにあける。

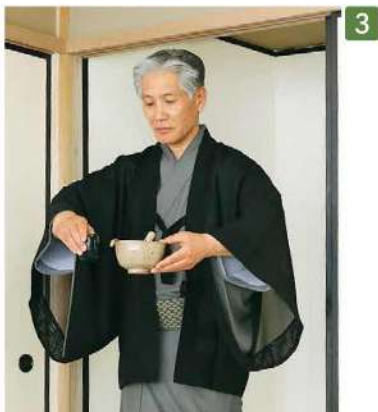
薄茶点前 炉運び



1



2



3



4



5



6



7

1

道具運び出す

● 水指を茶道口の建付けに置き、襖を開けて一礼をします

1.

● 水指を持って右膝から立って進み、点前畳中央炉縁の上座の端いっぱい座って、水指を畳の中央、定座に置きます

2.

● 棗、茶碗を運び出し、同時に水指の前に置きます

3 4.

● 建水を運び出し、茶道口に座って襖を閉めます

5.

● 建水を持って左膝から立ち、一度両足を揃え、左足から点前座に進みます

6.

● 炉縁の内隅をねらって座り、建水を置きます

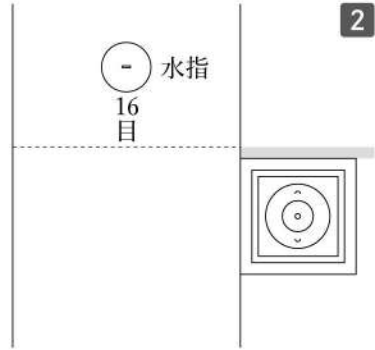
7.

点前のポイント

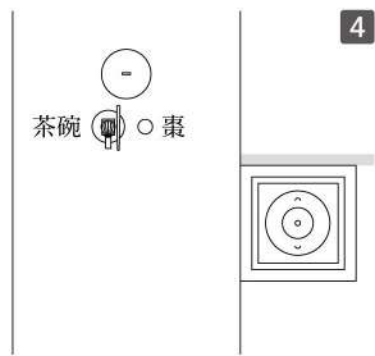
5 7

- 建水は、座ると同時に畳に置きます。
 - 四畳半切以上の茶室では、内隅をねらって座ります
- 道具を運ぶときは、畳の中央を歩きます。

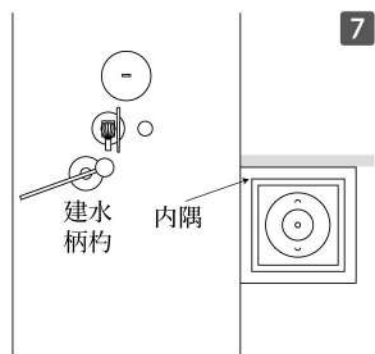
水指は貴人^{きじん}畳^{たたみ}の縁^{へり}から16目ほどあげ、畳の中央に据える。



棗、茶碗は水指の前に置く。



炉縁の内隅をねらって座る。



8



9



10



11



点前のポイント

8

鏡柄杓は、心をうつすようにかまえます。

11

柄杓は、合と畳が平行になるように持ち、「引く」ように蓋置に置きます。

2

棗、茶杓を清める↓
茶巾を出す

● 柄杓をかまえます(鏡柄杓)

8.

● 蓋置を右手で建水から取り、

蓋置の正面をあらためます 9.

● 炉縁の下座、畳の縁外、畳目

三つあけて置きます 10.

● 柄杓を蓋置に引きます 11.

35



36



37



38



39



40



41



- 茶杓を右手で取って、正客しょうきやくに「お菓子はどうぞ」とすめすめす **35**。
- 棗を左手で取って、茶杓をにぎり込み、棗の蓋を開けて蓋を右膝前に置きます **36** **37**。
- 茶杓を持ち直し、茶を二杓ほどすくって茶碗に入れます **38**。
- 茶杓を茶碗の縁へりで軽く打って茶をはらい、棗の蓋を閉めます **39** **40**。
- 棗を元の位置に戻し、茶杓を棗の上に戻します **41**。

点前のポイント

35
36

- 茶杓を取る位置は、きりどめ切止よりも少し向こうを持つようにします。

35

- 客に菓子をすすめるときは、茶杓を持った手の小指を、右膝頭に軽く置くようにします。



54



52



55



53



50



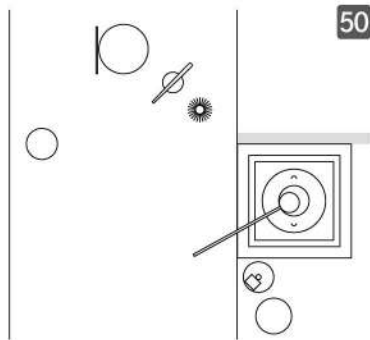
51

帛紗扱いの場合

• 正客の一口で帛紗を腰につけます。



50



51.

• 茶碗を右手で釜の蓋の下座、定座に出します **50**。
• 正客からの挨拶を受けます

4

仕舞いつけ↓道具を置き合わせる

• 茶碗が戻ると右手で取って、左掌で扱い、膝前に置きます

52

53

54。

• 柄杓で湯を汲み、茶碗に入れて、柄杓を釜にあずけます

55。



82



83



84



85



86



87

※拝見のない場合は38頁参照

● 蓋置を右手で取って左掌にのせ、水指正面にまわります

82
83。

● 蓋置を右手で扱って左手で建水の後ろに置きます

84。

● 茶碗を右一手で勝手付きに割りつけます

85。

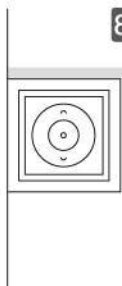
6

道具を清めて↓拝見に出す

● 棗を左掌にのせて客付き下座、炉縁の角にまわり、棗を膝前に置きます

86
87。

86



客付き下座
炉縁の角

勝手付き

棚の扱い

01 更好棚【こうこうだな】

玄々斎好 更好棚

この棚は、三重棚の上一段をはずした形で、当初は桐木地のものでしたが、禁裏きんりに献上するため黒搔合かまあわせ塗ぬりで爪紅つまぐれとし、更に好み替えられたところから更好棚の名称となったといわれています。他に青漆爪紅せいしつ、溜塗たあのものなどもあります。

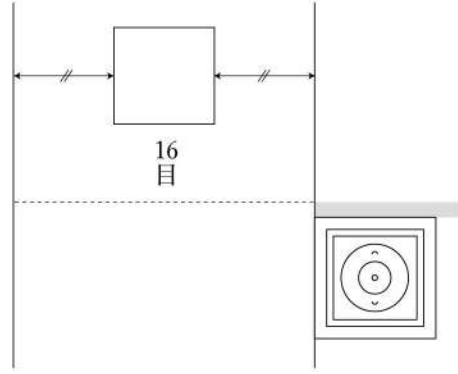
点前の準備として中棚に薄茶器を荘っておき、仕舞いつけのあと荘り残す場合は、柄杓、蓋置は中棚に、薄茶器は天板に荘ります。

毎月異なる棚を用いて扱いを紹介します。



棚は、大棚、小棚、仕付棚に大別されます。なかでも小棚の分類は、板の数から一重棚、二重棚、三重棚、そして地板のない運び棚にわけることができ、柱は二本柱、三本柱、四本柱、そして柱ではなく側板がはまった形のもの、勝手付きの柱に釘の打たれているものなどさまざまな形状のものが 있습니다。棚の形や柱の数、形状によってそれぞれの棚の扱いは異なります。歴代宗匠方もそれぞれの棚の扱いをお好まれています。大体は基本となる形や形状にそって作られています。それぞれの棚の扱いを修得することもまた、日々の稽古において大切なことです。

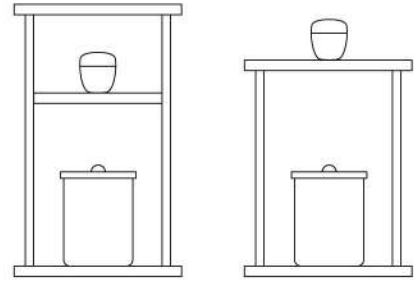
棚は貴人畳の縁から16目ほどあけ、畳の中央に据える。



準備（薄茶点前）

- 棚を点前畳の左右中央、貴人畳の縁から16目のところに地板の前端がくるように据えます。
- 水指に水を九分目ほど入れて、地板の中央に置きます。
- 薄茶器に薄茶を掃き、棚に応じて決められた位置に置きます。
- 茶碗に茶巾、茶筌、茶杓を仕組みます。
- 建水に唐銅や陶磁器の蓋置（運び水指の棚の場合、竹蓋置を用いる）を入れ、柄杓の合を伏せて建水の縁にかけておきます。
- 点前座の炉は、灰、釜の高さを整え、炉縁をはめておきます。
- 風炉先は、棚よりも高さがあるものを据えます。

一重棚、二重棚ともに、水を入れた水指を地板中央に置く。



一重棚の小棚は、薄茶器を天板中央に置く。

二重棚の小棚は、薄茶器を中棚中央に置く。



- 道具を清めて
定座に置く
- 棗を帛紗ふくさで清めると、炉縁ろべの角と棚の客付き手前角を結んだ線の、中心よりやや左寄りに流して置きます。
 - 茶杓ちやしやくを清めたあと、茶筌ちやせんを棗の右側に流して置きます。



- 茶碗を運び出して、
棗と置き合わせる
- 茶碗を持って棚正面に座り、茶碗を右、左と二手で勝手手に仮置きします。
 - 中棚の棗なつめを右手で取って、棚正面右寄りに置きます。
 - 茶碗を左、右、左と二手で棗の左横に置き合わせます。

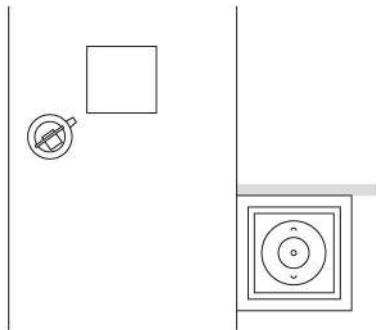


- ここからは更好棚(薄茶点前)の扱いを紹介します。
- 点前の基本となる流れは薄茶点前の運び(2〜39頁)と同様です。



道具をさげて、
水指に水をつぐ

- 茶碗をさげると、水次を持ち出して棚正面に座り、勝手付きに手なりに置きます。
- 水指を棚からおろします。



棚の扱いのポイント

- 拝見の所望がない場合
柄杓、蓋置を棚に荘ったあと、茶碗を右一手で割りつけて、棗を天板に荘り建水を持ってさがります。

- 蓋置を右手で取って、左掌にのせ、棚正面にまわります。
- 蓋置を柄杓の柄の左側に荘ります。
- 拝見物を出し、道具をさげるまで前出の運びの点前と同じです。